

目 次

施策提言の要約	1
はじめに	2
第1章 A町の現状分析	2
1. 人口推計と地理特性	2
2. コミュニティバスの導入	3
3. コミュニティバスの現状分析	3
第2章 問題点整理	5
1. 慢性的な赤字体質と財政支援の限界	5
2. バス利用者は高齢者等に限定的	5
3. 行政と民間との役割分担が不十分	5
4. 住民の公共交通維持への当事者意識が希薄	6
第3章 政策提言	6
1. バス事業への国の支援策	6
2. 生活交通確保の先進事例	7
3. 新交通体系の提言	9
《提言1》地域公共交通会議（法定協議会）の設立	9
《提言2》公が担うべき公共交通	10
《提言3》地域住民が担うべき公共交通	11
おわりに	14

施策提言の要約

現
状

- ◆ 地域公共交通は、慢性的な赤字体質であり、公費負担により路線が維持されているが、地方自治体の財政状況は、厳しさを増すばかりである。
- ◆ 高齢化の進展により老人世帯が増加し、交通弱者は今後増え続けるが、自家用車に頼れる住民は、地域公共交通の維持について、関心が薄い。

目
標

財政支出を最小限としながら、高齢者が気軽に出かけられ、活力と生きがいの維持が可能となる高齢化社会に対応した交通体系の創出

課
題

慢性的な赤字体質と財政支援の限界

バス利用者は高齢者等に限定的

行政と民間との役割分担が不十分

住民の公共交通維持への当事者意識が希薄

提
言
・
施
策

地域公共交通会議（法定協議会）の設立

〔 骨格路線 〕

〔 枝線 〕

行政が担う路線を必要最低限の骨格路線のみとし、増便させ利便を向上させる

契約付き定時定路型デマンドタクシーの導入

「ご近所乗り合い」で支え合い

NPOによる自主運営

高齢者に優しい待合所の設置